

## 医療展望

山形大学医学部長  
同脳神経外科教授

嘉山孝正

(かやま・たかまさ)

新臨床研修制度が義務化されて、3年目になります。本制度の負の影響が、医師の大学離れと地域医療の崩壊です。この現象は事実です。耳には心地よく聞こえるお題目が並べられていますが、机上の空論に近い教育制度です。医師の生涯教育の中心は日本だけでなく、欧米を含めて、大学医学部および大学附属病院で行うことが、最も効率がよく、医療の質を高く保っていけるのです。その理由は、大学医学部および附属病院は設備、人員が教育ができるように整備されているからです。例えば、山形県の最も規模が大きい病院でも医師は90名しかいません。山形大学医学部

度を実行しているのが日本の現状です。文部省が10年前に行ったゆとり教育と同じことを、医師の教育でもやっているのが新臨床研修制度です。ゆとり教育もお題目はよかったです。結局子供たちの学力低下を招いた事実は否定できません。医学教育のゆとり教育は、確実に将来の日本の医療レベルの低下を招きます。

大学医学部から医師が離れている事実はあります。しかし、巷間言われているように、大学医学部の研修プログラムがよくなければ、また、低レベルだからではありません。レベルが高いからこそ、現代の若者、すなわ

ゆとり教育は日本医療のレベル低下を招く  
新臨床研修制度の負の影響

には350名の医師がおります。東京の有名な病院でも、東京大学医学部と比べれば医師の数はずっと少ないのです。そういう教育に適していない市中病院に、卒業したての何も分らない若い医師を、分散させ研修をさせて、若い医師は実のあるものが得られるのでしょうか。また、教えている市中病院の先輩医師にとっても、将来自分の後輩になることが保証されていない若い研修医を真剣に教えている医師は少数です。

私自身の所にも研修医が配属されてきていますが、お客さんの扱っしかありません。どの社会でも同じことだと想像できるでしょう。米国では30年以上前に廃止された研修制

ち、ゆとり教育で育った若者が敬遠しているだけなのです。難しいことはやらずに生活しようという空気を作ってしまったのが、臨床研修制度を取り巻くマスコミも含めた宣伝だったのです。大病院にも風邪の患者さんは来院しますし、欧米の低レベルの医学教育と比べれば日本は世界最高の教育を行ってきたのです。

事実、世界保健機関（WHO）の最新版の報告書（2000年版）では、日本の医療の質は、世界第一に評価されています。医療レベル、医療界の責任感、医療費の公平性が評価項目です。その高い医療レベルの地域均等性、すなわち、北海道から沖縄まで、医療レ

# 日本の医学教育から見た検証